

研究主題

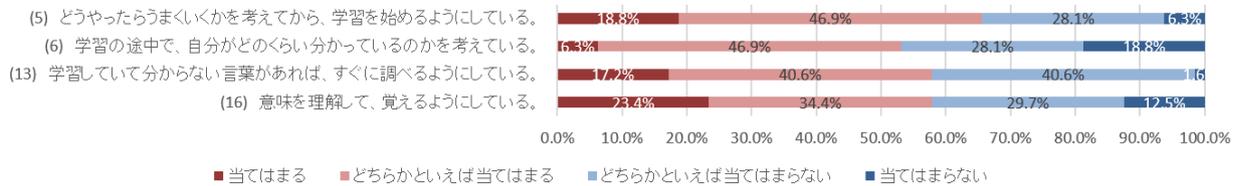
学びに向かう力を育むための指導の在り方を考える

～「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析を通して～

分科会提案

現在の児童の姿 「児童・生徒の学力向上を図る調査」の分析より
以下の4点について、本単元で重点的に改善を行う。

4 学習の進め方について、一番近いと思うものを選んでください。



分からない・調べたいと思ったときに、すぐ調べることができない。

単元や1 単位時間の学習に見通しがもてない。

タブレット型端末を活用することで、課題を解決したり意見の修正をしたりすることを容易にする。

4- (13) (16) の改善

課題に対してクラスの予想を立てることを通して、学習の見通し（調べた結果のゴールイメージ）をもたせる。

4- (5) の改善

思考ツールを活用し、毎時間の学びを1 枚のシートに蓄積することで、毎時間、学習問題や単元の計画を確認させる。

4- (6) の改善



目指す児童像

課題に対して、あきらめずに繰り返し取り組むことができる。

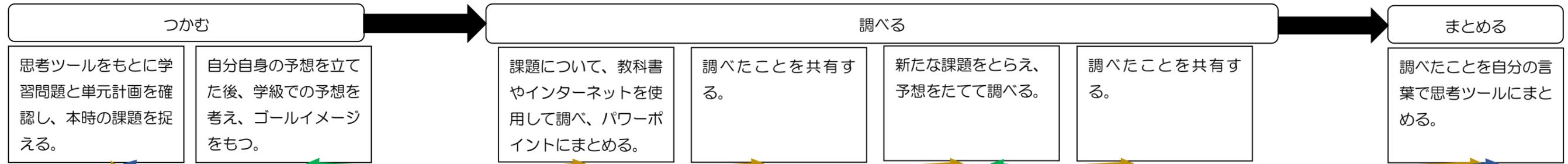
課題解決に失敗した際に、方法を変えて取り組むことができる。

課題に取り組む際に、自分で計画を立てて取り組むことができる。

第5学年 社会科 単元名 「自動車を作る工業」

単元の目標「我が国の自動車工業について、製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、資料を活用して調べ、まとめ、自動車生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考えたり表現したりする活動を通して、自動車工業に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するために様々な努力や工夫をして、工業生産を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に工業生産の発展について考えようとする態度を養う。」

本時の流れ



手だて1 「タブレット型端末の活用」

全ての時間、ノートの代わりにパワーポイントを使用した。ノートとタブレット型端末の併用では、思考の流れを一つにまとめることが難しいが、すべてをパワーポイントにまとめることで、思考の流れを一つにまとめ、振り返りやすくなった。

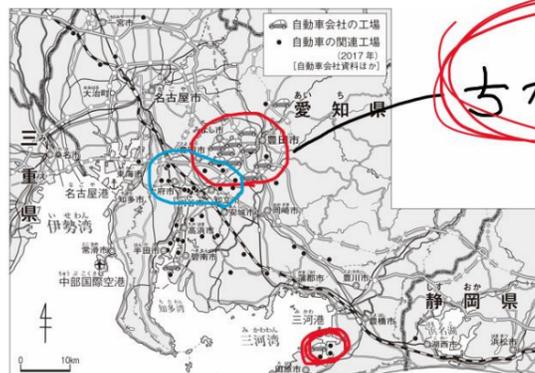
めあて 車の作り方を調べ、自動車会社の人たちがどのような工夫や努力をしているのか探してみよう

予想

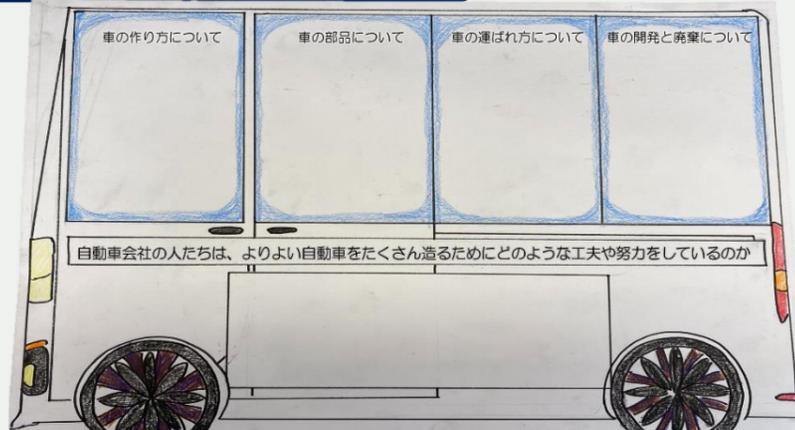
【造り】
・機械なども、使って設計図などを使って作っていると思う。
【工夫】
・使用者が、怪我をしないように。
・エコな部品。

みんなの予想

【造り】
・機械なども、使って設計図などを使って作っていると思う。
【工夫】
・使用者が、怪我をしないように。
・エコな部品。



手だて3 「思考ツールの活用」



文字の大きさや内容を用意に修正することができるようにした。毎時間、授業の始めと終わりに学習問題と学習計画を振り返ることで見通しをもたせるとともに、学びを蓄積する。

車の造り方 ③

組み立て

メモ

ようせつされた車体を洗浄(せんじょう)し、自動でとそうを行います。クルマをきれいに仕上げるために、何度もとりょうをぬっていきます

工夫や努力、疑問

同じクルマでも、お客様の注文によって車体の色やシートの色や部品が1台ごとにちがいます。部品をまちがいに組み立てるために、作業は部品の種類や色を細かく指示したピラを見て組み立てていきます。

スクリーンショットを活用し、視覚的で見やすいノートを作成させた。そのために、ワークシートのように、枠組みを用意するなどしてまとめやすくする工夫を行った。

手だて2 「クラスの予想を立てる」



インターネットを活用した調べ学習をゴールイメージに沿って、自分の力で行った。

- 単元を通して授業の流れを固定
- ①学習問題と計画を確認
 - ②課題の把握
 - ③個人の予想を立てる
 - ④クラスの予想を立てる
 - ⑤調べる
 - ⑥意見の共有をする
 - ⑦まとめる

「クラスの予想＝想定される調べた結果」と理解することでゴールイメージをもたせることができ、粘り強く調べることができる。



電子黒板とクラスルームを活用した授業を行った。

児童に見られた様子

手だて1

「タブレット型端末の活用」

スクリーンショットを活用するなどしながらまとめていた。

授業後のアンケートでは、9割を超える児童が、タブレット型端末の活用について肯定的に捉えていた。



手だて2

「クラスの予想を立てる」

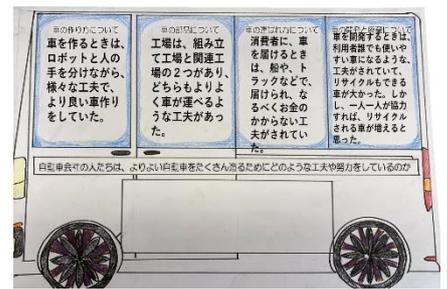
多くの児童が、問題に正対した調べ学習を行うことができていた。



手だて3

「思考ツールの活用」

単元計画を基に、見通しをもって学習活動を行い、学びを蓄積することができた。



成果

- タブレット型端末を活用したことで、学習にあきらめずに繰り返し取り組むことができ、書字に課題のある児童も学習に主体的に取り組むことができた。
- 学習問題や学習計画を明確にし、ゴールイメージをもったことで、児童の学習への追究意欲が高まった。
- 前時の振り返りと学習計画の確認を毎時間の導入で行ったことで、学習の積み重ねを意識しながら、見通しをもって学習に取り組むことができた。

課題

- 子どもにメタ認知能力が育っていないことから、何がゴールで、どのようになれば達成かといったことに気付かせるための手だてと支援を具体的に考える必要がある。
- 調べた結果から、自動車会社の人にはどのような願いをもっているかという展開にした方がよかった。
- 学習調整の手だてや身に付けさせる資質・能力の見極めと評価材料について検討する必要がある。